

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年12月21日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690200637		
法人名	株式会社 こふの希		
事業所名	こふの希		
所在地	富山県高岡市伏木矢田上町201-10		
自己評価作成日	平成30年11月17日	評価結果市町村受理日	平成31年1月8日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	平成30年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者職員が、笑って楽しく共に過ごせるよう、利用者一人ひとりに合わせた対応ができ、楽しいイベント、外出会の開催など、多くのレクリエーションを企画し、参加をしていただいている。地域の方との交流も大切にしている。また利用者の意志及び人格・人権の尊重に努めるとともに、個別の介護計画を作成し、利用者が必要とする適切なサービスを提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

職員は笑顔溢れる明るい雰囲気のもと、皆で、家庭の団らんを楽しむような暮らしの支援に努めている。調理や掃除などの役割ごとを持ってもらうと共に、道の駅雨晴までドライブし、アイスクリームを味わいながら絶景を堪能するなど、張り合いや生きがいを感じてもらえるよう工夫している。また、近くの小学校や幼稚園と交流し、子ども達と笑顔でふれあうなど、地域に溶け込めるよう配慮している。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目	取組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

こふの希

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、管理者と職員の方 向性の統一も行っている。イベ ント、レクリエーションを企画し、 笑顔溢れる事業所になるよう心掛 けている。	新入職員には、初めに理念をきめ 細かく説明している。また、すべ ての職員が、理念を理解した上 で、日々の支援にあたることを、 申し送り時などに確認し、理念の 実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮 らし続けられるよう、事業所自体が 地域の一員として日常的に交流して いる	地域の公民館の行事に参加した り、小学校や幼稚園の行事を見学 に行っている。また、小学生やボ ランティアさんが訪問に来てくだ さり、利用者と交流をしている。	隣の公民館の文化祭などの行事に 参加したり、すぐ近くの古府小学 校と相互に行き来する関係をつく るなど、地域の色々な年代の人達 と楽しく交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げ ている認知症の人の理解や支援の方 法を、地域の人々に向けて活かして いる	小学校のボランティア委員会の活 動の場として、当事業所を利用し ていただいている。地域の方へ、 認知症の人の理解についての支援 方法については、発信できていな い。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサー ビスの実際、評価への取り組み状況 等について報告や話し合いを行い、 そこでの意見をサービス向上に活か している	事故報告等、サービスの実際を報 告し、改善策の意見をもらって、 今後の対策につなげている。	会議の積み重ねから、公民館や小 学校、余興ボランティアの紹介な どにつなげている。また、ヒヤリ ハット事例があれば報告し、アド バイスをもらうなど、サービス向 上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密 に取り、事業所の実情やケアサー ビスの取組みを積極的に伝えながら、 協力関係を築くように取り組んでい る	市町村担当者とは、密に連絡はと りあっていないが、地域包括支援 センターの職員さんとは、運営推 進会議を通じ、よりよいケアがで きるよう、協力関係を築いてい る。	介護保険制度の疑問点などがあれ ば、市の担当者から説明を受けて いる。また、事業所の運営にあ たっての相談ごとにものってもら うなど、必要な都度、連絡を取り 合っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の安全を重視したうえで、身体拘束にならないケアに努めている。しかし、玄関の施錠については、夜間は、離設の危険回避の為に、やむを得ず行っている。	どのような行為が身体拘束になるかを職員に具体的に説明し、利用者の安全と身体拘束による弊害を理解した上で支援にあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、高齢者虐待防止の研修に参加している。虐待の具体的な行為、言葉遣いや、質からも、虐待につながる事を常に念頭におき、職員同士でも注意しあい、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加するなどして、参加した職員は、権利擁護に関する制度をある程度理解できており、制度を活用した支援を勧められるが、他の職員は、権利擁護に関する制度についての理解が乏しいので、内部研修などで周知したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関して、利用者や家族に十分に説明をした上で、同意を得て、署名、捺印をいただいている。その際、疑問が無いか、確認を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの、意見、要望は、その都度職員で検討し、なるべく希望に沿うように心がけている。また、玄関に意見箱を設置しており、匿名での意見も受け付けている。	利用者からは、買い物の要望などがあり、応えている。家族の来訪時には、すぐに出迎え、気兼ねなく訪問してもらっている。また、電話での相談には、わかりやすく丁寧に対応するよう心がけ、意見や要望を運営に活かしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者、職員間ともに風通しがよく、お互いに意見が出しやすい環境である。	カンファレンス時に、色々な要望や提案を出してもらっている。また、管理者は、職員個々の相談に応じ、働きやすい事業所運営に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務シフトは、各職員の希望をできる限り取入れローテーションを組んでいる。家庭と仕事の両立、人間関係を含め、なるべく働きやすい環境になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員が研修を受ける機会があり、実際の業務に生かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修等で、同業者と関わる機会があり、そこで関係性を築いた方と連絡を取り合う事がある。(事業所の空き状況やトレード、無理なお願いなど)同業者とのネットワークづくりはサービスの質の向上のためにも大切と思っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の状態、意向など伺い、信頼関係を築くよう努力している。本人の様子をみながら、入居後、安心して過ごせるような関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の要望を入居前に聞いて、サービス開始時から、本人の要望に応えられるようにしている。入居後もコミュニケーションを多くとり、本人が安心して過ごせるように一緒に関われる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ゆっくり話を聞きながら、その時、必要としている支援は何かを考え、他のサービスにつなげる事もある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりに出来る事を見つけて、掃除や盛り付け、軽作業、レクリエーションを一緒に行ない、家族の一員として、生活を共にしているような配慮をしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時は、利用者さんの最近の様子をお伝えしている。本人が家族との繋がりを大切に思っていたけように家族との連携を取りながら、一緒に本人を支えていける関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の人、知人など、面会に来ていただいたり、時には自宅でゆっくり、くつろいだりといった時間がもてるように支援している。	行き慣れたショッピングセンターで買い物したり、伏木のお祭りなどに出かけている。知人の訪問は少ないが、自宅に帰った際に、家族の協力のもと、近所の人達と話す機会をつくってもらっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格などを把握し、良好な関係が築けるように席順を変えたり、レクリエーションや行事を通して利用者同士が良好な関係を保てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、気軽に訪ねていただいたり、相談を受けるなどの体制づくりに努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話の中から思いや意向をくみ取ったり、仕草や表情から感じ取ったりしているが、それでも困難な場合は、家族に協力いただいたりしている。	職員の日頃の関わりの中から、例えば、入浴時のリラックスした状態での会話や、離れた位置にいる職員を目で追う様子などに留意し、本人の思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人に昔好きだった事などを尋ねたり、家族から生活歴や環境生活の情報をもとに事業所で安心して生活を送っていただけるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態の変化を見逃さず、早期発見できるよう日頃から一人ひとりの状態を把握し、記録に残し、確実に申し送りができるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの要望を聞き、情報をもとにケアマネージャー（計画作成担当者）を中心に一人ひとりのニーズに沿ったケアプランを作成している。	職員からの日々の気づきや提案、家族から生活歴などを聞いて、カンファレンスで話し合っている。また、利用者の状態の変化に留意し、介護計画の見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に様子やケアの内容、状態、変化など記入しており、申し送りや連絡ノートの活用、また必要に応じてカンファレンスを行い情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、病院受診や買い物などの同行に対応している。可能な限り、利用者が満足していただけるサービスの取り組みをしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、ボランティアをお願いしている。また、散歩やドライブなどを通して、季節の移り変わりを楽しんでいただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を大切にし、希望するかかりつけ医へ受診していただいている。	家族と共に、今までのかかりつけ医に受診したり、複数の医療機関からの訪問診療を受けるなど、利用者や家族の希望に沿い、適切な医療を受けられるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師やパート看護師の協力により、日常の健康管理などの相談や指導を受けている。体調に変化があったときはすぐに看護職員に報告し、指示を仰ぎ、適切な対応や受診ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、面会に行き、病院関係者との情報交換や相談に努め、退院後の受け入れがスムーズに行えるようにしている。また、顔の見える関係作りを心掛けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	随時、家族、主治医、地域連携室と相談しながら、現在の状況を伝え、どのようになったら、どのような対応をするのかなど、取り決めを行っている。場合によっては、病院やその他事業所へ結びつけるなどの支援を行っている。	看護師がいない中で、可能な限り介護職員のみでできる支援を行うこととしている。今後のことを考える時期がくれば、利用者の思いをくみ取りながら、医師の助言をもとに、家族と話し合っ方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者が急変したり、事故が発生した時の緊急対応マニュアルがあり、緊急時に備えているが、実践力については、今後も経験や知識の理解が必要。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署に協力を頂き、日中想定、夜間想定避難訓練を実施している。また、災害対策マニュアルを作成し、地震、台風、雨などの災害の対策に全職員が取り組んでいる。	火災を想定しての避難訓練を年2回実施している。また、事務所の敷地の地盤を確認し、水害や地震時の避難方法を職員間で共有している。	避難訓練に、地域の人達に参加してもらえるよう、引き続き働きかけ、避難後の見守りなどにつなげることが期待される。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助に入るときは、本人の気持ちに配慮したケアに努めている。一人ひとりの性格を把握し、利用者を尊敬した声掛けや対応をするように心がけている。	理念の「笑って共に楽しく生きる」を実践するよう心がけ、明るい雰囲気をつくっている。そのような中で、利用者のできることを暮らしに取り入れ、一人ひとりの自尊心を大切に支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人の希望や思いを聞き、レクリエーションの参加の有無、居室の温度設定など、利用者自身で自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活のリズムを崩すことなく過ごせるように配慮している。本人のペースやその日の体調に合わせて本人の希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる利用者は自分で整えてもらい、出来ない利用者は職員が声掛け、介助を行っている。また、自分の好きな服を選んで着ていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は主に職員が作るが、野菜の皮むきや盛り付け、皿洗いなど、その人ができる事を見つけ、手伝ってもらっている。	カレーにブロッコリーやミニトマトを添えるなど、色取りのよい献立を工夫し、目でも味わいながら食事が進むよう配慮している。また、職員も食卓に着いて、会話をしながら食事を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにあった食事形態にしている。また、自分で喉の渴きを訴えられない方もおられるので、定期的に水分補給の時間を設けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔トラブルを防ぐために、毎食後、個々に応じた口腔ケアを行っている。また、義歯の清潔保持にも努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意の訴えの無い利用者にも、時間ごとに誘導する事により、トイレでの排泄を促している。さりげない声掛けを心がけている。	利用者の生活リズムに合わせたケア方法を工夫し、安易におむつに頼るのではなく、利用者の尿意を大切にしたい自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し、水分強化や、寒天ゼリーの摂取をいただいている。ラジオ体操や、歩行運動など、身体を動かし、なるべく薬に頼らないスムーズな排便になるよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週に2回、ある程度、曜日は決まっているが、本人の希望により、入浴日を変更できる。本人の体調や本人希望により、シャワー浴をしていただく事もある。	利用者の思いをくみ取り、無理強いすることなく、本人のペースで入浴できるよう配慮している。また、冬場の温度差などに配慮し、安全な入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、活動的に過ごしていただけるような事を考えたり、休憩時間を入れたりしながら、夜間安眠できるような生活リズムになるよう取り組んでいる。温度や湿度にも注意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師の指示のもと、処方内容、効果を確認し、薬の変更時には、職員全員が把握するよう伝達を行っている。また、服用後の利用者の変化にも十分注意し、記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者によって、決まった役割をもって、お手伝いしていただいたり、本人に無理のないようにその方の能力や楽しみに合ったレクリエーションの提供を考えて参加していただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出（ドライブや公共の施設見学など）したり、個人の希望に出来るだけ応じられるよう、家族の協力も得ながら外出できるようにしている。天気の良い日は、散歩や外気浴を行っている。	気分転換や夜間の安眠につながるよう、事業所の周りを散歩したり、近くのドラッグストアなどに出かけている。また、新湊大橋や道の駅雨晴、氷見のバラ園など、絶景や季節の花を堪能するドライブに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、自室にてお金を所持できる（事務所にて預かる事もできる）職員と一緒に買い物に出かけ、自分の財布から好きな物を購入する方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば、家族に電話ができる。携帯電話を持っている利用者は、自分でいつでも、家族と連絡を取り合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロアで季節ごとに飾りを変え、季節を感じさせるような装飾をしたり、行事に参加した時の写真を飾ったり、利用者個人が作成した作品を掲示したりしている。	クリスマスツリーをイメージした手作り作品や、近くの古府小学校の児童との交流風景の写真などを飾り、明るい雰囲気をつくっている。また、食事時の音楽や室温、湿度に留意し、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの一角に、テレビとソファが設置されており、利用者同士で会話したり、テレビを見たりして過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用されていた馴染みのある物や家族の写真やお気に入りの小物などを置き、居心地の良い環境づくりを行っている。	相撲好きな利用者は、お気に入りの力士のカレンダーを飾ったり、テレビを持ち込んで、好きな番組を見るなど、家族と協力しながら、一人ひとりに合わせた居室をつくっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には名前、トイレには文字や矢印をつけたり、目で見て分かるように工夫している。また、安全に過ごせるよう、手すりを設置し、夜間でも安心して歩行ができるよう明かりをつけている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 こふの希
 作成日 平成31年 1月 2日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練に、地域の人達に参加してもらえよう、引き続き働きかけ、避難後の見守りなどにつなげることが期待される。	地域の方を交えての避難訓練を行う。	次回の避難訓練時に、地域の方に参加を依頼する。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。